

JEONNAM
2023



생명의당 전남
함께날자 대한민국!
THE 104TH NATIONAL SPORTS FESTIVAL

제104회 전국체육대회

THE 104th NATIONAL SPORTS FESTIVAL



第104回韓国国体・全南2023 在日同胞選手団の記録



재일본대한체육회
在日本大韓体育会
KOREA SPORTS COUNCIL IN JAPAN

JEONNAM
2023



생명의땅 전남
함께날자 대한민국!
THE 104TH NATIONAL SPORTS FESTIVAL

제104회 전국체육대회

THE 104th NATIONAL SPORTS FESTIVAL

第104回韓国国体・全南2023 在日同胞選手団の記録

●第104回全国体育大会・全南2023の紹介	4
●在日同胞選手団派遣概要	6
●在日同胞選手団名单	
◇引率団、参観団、本部役員・スタッフ	7
◇各競技選手団	8
●在日同胞選手団の活動記録	
◇在日同胞選手団の成績総評	10
◇海外同胞選手団メダラー一覧と総合順位表	12
◇在日同胞選手団の獲得メダラー一覧	12
◇歴代韓国国体在日同胞選手団の記録	13
◇在日同胞選手団結団式	14
◇開会式	16
◇全羅南道知事主催海外同胞歓迎会	17
◇競技別結果	18
サッカー	18
柔道	20
ボウリング	21
テコンドー	22
テニス	23
スカッシュ	24
卓球	25
剣道	26
水泳、陸上	27
◇閉会式	28
●在日同胞選手団「参加者のコメント」	29～37
●第105回全国体育大会・慶尚南道2024選手募集	38
●在日同胞選手団・協賛広告	2、39～52

생명의땅 으뜸진남



第104回韓国国体・全南2023
在日同胞選手団の記録

発行所 在日本大韓体育会 /2023年11月

©2023 KOREA SPORTS COUNCIL IN JAPAN

本紙の掲載内容(文章、画像など)の一部および全てについて、事前の
許諾なく無断で複製、複写、転載、転用、編集、改変、販売、送信、放送、配
布、貸与、翻訳、変造などの二次利用を固く禁じます。万が一、そのような
事実を発見した場合には、警告の上、悪質な場合には法的措置をとる場
合がございます。



木浦総合スタジアムで開かれた開会式

◆第104回全国体育大会・全南2023 概要

開催期間 : 2023年10月13日(金)～19日(木) 7日間

ハンドボール、バドミントン、ホッケー、ビリヤード、ボウリング一般は先行開催

開催地 : 木浦総合スタジアムなど全羅南道70カ所の競技場

競技 : 49競技(正式47、公開2)

◇正式競技

剣道、ゴルフ、弓道、近代五種、バスケットボール、ビリヤード、ダンススポーツ、ラグビー、レスリング、ローラースケート、囲碁、バレーボール、バドミントン、ボディービル、ボクシング、ボウリング、射撃、山岳、セパクタクロー、ソフトテニス、水上スキー・ウェイクボード、水泳、スカッシュ、乗馬、シルム、野球・ソフトボール、アーチェリー、エアロビクス・ヒップホップ、重量挙げ、ヨット、ウーシュー(武術太極拳)、柔道、陸上、自転車、ボート、トライアスロン3種、体操、サッカー、カヌー、卓球、テコンドー、テッキョン、テニス、フェンシング、フインスイミング、ホッケー、ハンドボール

◇公開競技

合気道、足球

競技種別 : U18の部(旧高校生の部)、大学の部、一般の部、海外同胞の部

参加規模 : 2万8477人(選手1万9279人、役員9198人)

17市・道および18カ国・地域海外同胞

主催 : 大韓体育会

主管 : 全羅南道、全羅南道教育庁、全羅南道体育会

後援 : 文化体育観光部

◆スローガン

生命の地、全羅南道
ともに飛ぼう大韓民国

생명의 땅 전남
함께 날자 대한민국!

◆エンブレム

全羅南道の英文イニシャル「J」をモチーフに、清浄な海を象徴する「青」と天恵の自然環境を象徴する「緑」で、豊かな清浄全羅南道を調和させた表現。燃え盛る聖火の炎は、全羅南道の熱い情熱とエネルギーが新しい風に飛び立つ姿をデザイン。



제104회 전국체육대회
THE 104th NATIONAL SPORTS FESTIVAL

◆マスコット

全羅南道道政スローガンである「生命の地、最高の全羅南道」をモチーフに、男子の「センミョンイ」と女子の「ウットゥミ」でマスコットを制作。生命の源泉であり、継続した発展を担保とする大切な土地、全羅南道を豊かで最も住みやすい地域に変貌させ、道民が幸せな時代を切り開くという意志を表現。





10月12日に行われた在日同胞選手団の結団式

◆在日同胞選手団派遣規模

選手団90人、引率団6人、運営本部9人、参観団15人 合計120人

◆派遣競技(11競技)

海外同胞競技：サッカー、テコンドー、テニス、ボウリング、スカッシュ、剣道、卓球
国内競技：柔道、陸上、水泳、テコンドー

◆在日同胞選手団公式日程

- 10月12日(木)：海外同胞選手団代表者会議(木浦国際サッカーセンター会議室)
- 10月12日(木)：在日同胞選手団結団式(シャングリアビーチホテル)
- 10月13日(金)：大韓体育会長主催 午餐会(ホテル現代木浦)
- 10月13日(金)：第104回全国体育大会 開会式(木浦総合スタジアム)
- 10月14(土)～19日(木)：各競技場で種目別競技
- 10月16日(月)：金瑛録全羅南道知事主催 海外同胞選手団 晚餐会
(南嶽スカイウェディング・コンベンション)
- 10月18日(水)：世界韓人体育会総連合会 定期総会(ホテル現代木浦)
- 10月19日(木)：第104回全国体育大会 閉会式(木浦総合スタジアム)

◆在日同胞選手団宿所

シャングリアビーチホテル(全羅南道木浦市平和路79)

□引率団

選手団長：姜英之(東アジア総合研究所理事長)

副 団 長：玄昌寿/李承珉/曹信虎/金永建

総 監 督：李圭亮(元民団北海道本部 団長)



□本部役員

崔相英(在日本大韓体育会 会長)

□参観団

宋基泰/権五雄/文京一/任隆二/金英明/姜榮眞/申命根/朴泰成/李且美/池竜学/趙晃大
遠藤正明/申 実/金優子/宮崎博子

□在日同胞選手団運営本部

事務局長：朴相泓(在日本大韓体育会専務理事)

渉 外：李東洙(在日本大韓体育会 対外協力部長)

総 務：慎求範(前民団本国事務所次長)

財 務：金明希(在日本大韓体育会総務部長)

写真記録：鄭眞一(在日本大韓蹴球協会常任理事)

運営委員：安有恒(在日本大韓体育会関西本部監事)

権源宅(在日本大韓体育会九州本部専務理事)

成正幸(在日本大韓体育会監事)



10月12日に行われた在日同胞選手団の結団式で決意を述べるサッカーチーム

サッカー

監督：秦昌守

コーチ：安玄太、慎未有

主務：金太学

選手：許瑛俊、姜榮、金康太、李晃輝、張太佑、文泰樹、梁俊虎、金天成、李榮洙
康胤二、張賢祐、金竜大、金龍柱、金龍哉、谷山翔



テコンドー

監督：金漢老

コーチ：申準植、金大漢

選手：男子 金秀範、文 仁、木下濟暉、金武賢、文太一、加藤貴士
女子 加藤柚帆、古澤嘉愛



柔道

監督：李泰範

選手：男子 小川晟矢、松永昂大
女子 金智賢



テニス

監督：申永吉

コーチ：金順美

選手：男子 尹準熙
女子 崔菜月、咸銀栄



ボウリング

男子監督：河政男

コーチ：呉俊洙、林永起

女子監督：裴正澧

選手：男子 韓新悟、陳珉皓、宋在豪、李相勲、安吉秀、呉官律
女子 朴祥子、金光子、黄聖姫、金侖勁、車恩伊、金善英



スカッシュ

監督：小林瑛実
選手：女子 金炯珠



卓球

監督：李信子
選手：男子 元 鍾
女子 池松怡



剣道

監督：孫京翼
選手：男子 金明燮、夏 虎、河文龍、高橋忠志
女子 金希妍



水泳

監督：金一波
コーチ：金玟錫
選手：男子 劉政頻、楊隆成、洪元太



陸上

監督：金美敬
コーチ：白淑子、洪政阮
選手：女子 友利晟弓



10月13日の開会式で入場行進する在日同胞選手団



総 評

在日同胞は総合準優勝 金9、銀2、銅9…メダル20個獲得



在日同胞は海外同胞部門で準優勝、総合優勝は在米国同胞、第3位は在インドネシア同胞

15年ぶりの全南大会

第104回韓国国体全羅南道大会が木浦総合スタジアムをメインに、木浦市と全羅南道一円で10月13日から19日までの7日間行われました。すべての競技が終了した10月19日夜には、総合表彰式を兼ねた閉会式が木浦総合スタジアムで行われました。

新型コロナウイルスの関係で2020年から2021の2年間は事実上の延期または縮小開催となり、昨年の103回大会から海外同胞が3年ぶりに参加した正常大会となりました。

在日同胞選手団（姜英之選手団長）はサッカー、ボウリング、テニス、テコンドー、卓球、スカッシュ、剣道の海外同胞部門7種目のほか、国内種目の柔道、水泳、陸上、テコンドーの全11競技に出場しました。

競技初日に金メダル

在日同胞は開会式の翌日の大会2日目（10月14日）が海外同胞の部の競技がスタート。事実上の初日、ボウリング女子個人戦で黄聖姫選手が2位の在米同胞に

33ピン差をつけて優勝し、今大会在日同胞の金メダル第1号を獲得しました。

またこの日、サッカーの予選リーグも始まり、在日同胞チームは初戦、在フィリピン同胞と戦い、8-0と圧勝するなど、さい先良いスタートを切りました。

この勢いに乗って大会3日目（10月15日）にはスカッシュの女子で李炯珠選手が銀メダルを獲得しました。

連覇を狙うサッカーは予選リーグ第2戦を在中国同胞と戦い、6-0と圧倒し、準決勝進出を決めました。



競技開始初日、ボウリング女子個人戦で黄聖姫選手（中央）が金メダル獲得

ボウリングとテコンドーでメダル量産

メダルラッシュとなったのは大会5日目（10月17日）に行われたテコンドー。在日同胞は金メダル3、銀メダル1、銅メダル1の合わせて5個のメダルを獲得しました。

また、男女合わせて種目数が10個と最も多いボウリングも奮闘しました。大会2日目の女子個人戦に続き、大会5日目（10月17日）には、女子5人戦で2位の在米同胞と接戦を繰り広げ、最終ゲームとなる4ゲーム目の最後1投で5ピン差で優勝を飾りました。

大会6日目の女子マスターズでは金光子が金、朴祥子が銅メダルを獲得したほか、男子も3人戦と5人戦で銅メダルを獲得しました。



テコンドーは金3、銀1、銅1個のメダルを獲得

サッカーはPK戦制し2連覇

予選リーグを危なげなく勝ち進んだサッカーは準決勝で在英国同胞に5-0と大勝し、決勝は在米同胞と宿命の対決となりました。

大会6日目（10月18日）に行われた決勝戦は、前半、在米同胞に先制点を許すも、すぐに同点に追いつき振り出しに戻しました。後半は再三、在日同胞が攻め込みましたが、全員守備で守り抜く在米同胞のゴールネ



決勝戦で在米同胞とのPK戦を制した在日同胞サッカーチーム

ットを揺らすことが出来ず、試合終了。

結局、PK戦にもつれ込み、4-3で勝利し連覇を果たしました。

テニス尹準熙選手が雪辱

テニス男子シングルスで尹準熙選手が各国同胞を圧倒し金メダルを獲得、卓球では女子シングルの池松怡選手が予選リーグ全勝で決勝トーナメントに進み、決勝戦では在香港同胞にストレート勝ちし金メダルを獲得しました。

国内種目の柔道では小川晟矢（大学男子-81kg級）が銅メダルを獲得しました。

在日同胞選手団は最終的に金9、銀2、銅9個の合計20個のメダルを獲得し、18カ国の海外同胞で競う「海外同胞の部」の総合で準優勝を飾りました。

海外同胞の部総合優勝は金メダル12個を獲得した在米同胞、3位は金メダル4個の在インドネシア同胞でした。



テニス男子シングルス優勝の尹準熙選手

柔道の許海実が貫禄の金

昨年のグランドスラムで2度優勝、今年の国際大会でも2度優勝するなど、在日同胞3世で韓国女子柔道期待の株、許海実選手（-57kg級、ホ・ミミ=20、慶北体育会）も14日に行われた試合で堂々と優勝し、IJF（国際柔道連盟）世界ランキング6位の実力を見せつけました。

素晴らしい活躍に感動

在日同胞選手団の姜英之選手団長は「初めて韓国国体を見たが、どの種目の選手たちも一生懸命、戦ってくれた。ゴルフやテニスの一部が負傷や新型コロナウイルス感染で急きょ、不参加というアクシデントながら、金メダルが前大会の7個を上回る9個は、素晴らしい活躍」と感想を述べていました。

海外同胞のメダル一覧

順位	居住国・地域	金	銀	銅	計
1	在米国	12	14	5	31
2	在日本	9	2	9	20
3	在インドネシア	4	4	8	16
4	在豪州	3	4	3	10
5	在カナダ	2		2	4
6	在ベトナム	1		2	3
7	在ニュージーランド	1		1	2
8	在フィリピン		3	8	11
9	在グアム		2	1	3
10	在中国		1	5	6
11	在香港		1	4	5
12	在マレーシア		1	1	2
13	在英国			1	1
14	在德国				0
14	在スペイン				0
14	在ブラジル				0
14	在アルゼンチン				0
14	在サイパン				0
メダル計		32	32	50	114



メダルを量産しファイティングポーズのテコンドー選手たち



開会式の入場行進で笑顔を見せる在日同胞選手団

在日同胞選手の獲得メダル

◆金(9)

黄聖姫(ボウリング女子個人戦)
 ボウリング女子5人戦(朴祥子、金光子、黄聖姫、金侖勁、車恩伊、金善英)
 金光子(ボウリング女子マスターズ)
 金秀範(テコンドー男子+80kg級)
 加藤柚帆(テコンドー女子-57kg級)
 崔嘉愛(テコンドー女子+67kg級)
 尹準熙(テニス男子シングルス)
 サッカー男子(許瑛俊、姜榮、金康太、李晃輝、張太佑、文泰樹、梁俊虎、金天成、李榮洙、康胤二、張賢祐、金竜大、金龍柱、金龍哉、谷山翔)
 池松怡(卓球女子個人戦)

◆銀(2)

李炯珠(スカッシュ女子個人戦)
 文 仁(テコンドー男子-68kg級)

◆銅(9)

崔菜月、咸銀榮(テニス女子ダブルス)
 崔菜月(テニス女子シングルス)
 元 鍾(卓球男子・シングルス)
 朴祥子(ボウリング女子マスターズ)
 ボウリング男子3人戦(韓新悟、陳珉皓、宋在豪)
 ボウリング男子5人戦(韓新悟、陳珉皓、宋在豪、李相勲、吳官律、安吉秀)
 木下済暉(テコンドー男子-58kg級)
 剣道団体戦(金明燮、夏虎、河文龍、高橋忠志、金希妍)
 小川晟矢(柔道大学男子-81kg級=国内種目)



2連覇を果たし崔相英会長を胸上げるサッカーチーム

韓国国体 在日同胞選手団の記録

参加 回数	国体 回数	開催期間	開催都市	選手団長	総監督	獲得メダル数				順位	参加 人数
						金	銀	銅	計		
1	30	1949.10.15～10.20	ソウル	蔡洙仁(東京)							3
2	34	1953.10.17～10.22	ソウル	鄭龍洙(東京)	金東春						25
3	35	1954.10.19～10.25	ソウル	金相吉(東京)	李仁燮						34
4	36	1955.10.15～10.21	ソウル	李能相(東京)	金柱煥						77
5	37	1956.10.03～10.09	ソウル	李能相(東京)	金東春					11位	132
6	38	1957.10.18～10.24	釜山	不明							
7	39	1958.10.03～10.09	ソウル	不明							
8	40	1959.10.03～10.09	ソウル	辛熙(東京)	李允求					10位	131
9	41	1960.10.10～10.16	大田	李裕天(東京)	金安守	2	1	0	3	10位	123
10	42	1961.10.11～10.15	ソウル	李允求(東京)	李錫儀	3	0	0	3	10位	96
11	43	1962.10.24～10.29	大邱	鄭建永(東京)	蔡洙仁	3	0	0	3	10位	142
12	44	1963.10.04～10.09	全州	金己哲(東京)	裴玉鉉	8	0	0	8	11位	173
13	45	1964.09.03～09.08	仁川	金普根(大阪)	李道述	1	0	1	2	12位	62
14	46	1965.10.05～10.10	光州	張基洙(東京)	金致淳	4	0	0	4	11位	160
15	47	1966.10.10～10.15	ソウル	鄭泰柱(福岡)	李奉男	2	0	0	2	11位	168
16	48	1967.10.05～10.10	ソウル	鄭泰柱(福岡)	金昌式	7	3	4	14	11位	142
17	49	1968.09.12～09.17	ソウル	姜宅佑(大阪)	曹祥鉉	3	2	2	7	12位	126
18	50	1969.10.28～11.02	ソウル	范瑱圭(東京)	金英宰	5	2	1	8	11位	108
19	51	1970.10.06～10.11	ソウル	范瑱圭(東京)	柳乙祚	1	3	4	8	10位	112
20	52	1971.10.08～10.13	ソウル	金振浩(大阪)	孫煥宇	4	5	2	11	12位	114
21	53	1972.10.06～10.11	ソウル	李俊明(北海道)	金致淳	3	6	2	11	11位	184
22	54	1973.10.12～10.17	釜山	朴源邦(東京)	安在成	4	5	8	17	11位	237
23	55	1974.10.08～10.13	ソウル	姜炳煥(大阪)	金性玉	5	3	4	12	11位	206
24	56	1975.10.07～10.12	大邱	蔡洙仁(東京)	丁海龍	2	1	5	8	11位	287
25	57	1976.10.12～10.17	釜山	朴鍾(山口)	全康夫	7	2	1	10	12位	157
26	58	1977.10.10～10.15	光州	朴成準(神奈川)	金仙吉	0	4	5	9	12位	102
27	59	1978.10.12～10.17	仁川	金仲浩(福岡)	丁海遊	0	1	2	3	12位	175
28	60	1979.10.12～10.17	大田	徐興讓(福岡)	洪性仁	1	4	4	9	12位	167
29	61	1980.10.08～10.13	全州	金琮斗(北海道)	池宗淵	0	0	3	3	14位	142
30	62	1981.10.10～10.15	ソウル	金仁鶴(北海道)	金聖大	1	2	3	6	11位	156
31	63	1982.10.14～10.19	馬山	許允道(東京)	洪武壬	2	4	1	7		176
32	64	1983.10.06～10.11	仁川	尹達鏞(東京)	金壽男	0	3	4	7		162
33	65	1984.10.11～10.16	大邱	崔漢洛(愛知)	金南守	1	0	1	2		176
34	66	1985.10.10～10.15	春川	柳雲行(山梨)	金辰圭	0	7	4	11		173
35	67	1986.06.20～06.25	ソウル・釜山・京畿道	朴鍾(山口)	姜壽一	7	6	4	17		174
36	68	1987.10.13～10.18	光州・全南	張斗會(大阪)	高錫棋	6	3	2	11	1位	185
37	69	1988.05.07～05.28	ソウル等分散	金昌式(愛知)	高澤均	11	2	1	14		93
38	70	1989.09.26～10.01	水原・安養・烏山	金在學(愛知)	金順寶	5	3	3	11	1位	135
39	71	1990.10.15～10.21	忠北	朴正準(大阪)	宋武夫	2	2	1	5	1位	142
40	72	1991.10.07～10.13	全北	金時頭(大阪)	金順英	8	4	5	17	2位	166
41	73	1992.10.10～10.16	大邱	金仁鶴(北海道)	黃石道	2	2	3	7	2位	147
42	74	1993.10.11～10.17	光州	金在學(愛知)	宋基泰	8	3	7	18	1位	134
43	75	1994.10.27～11.02	大田	金英宰(大阪)	金奉坤	8	3	5	16	1位	130
44	76	1995.10.02～10.08	慶北	金在學(愛知)	金文化	5	6	7	18	2位	115
45	77	1996.10.07～10.13	江原道	樺甲植(大阪)	鄭利光	6	4	1	11	2位	125
46	78	1997.10.08～10.14	慶南	崔萬斗(大阪)	河文洙	6	4	1	11	2位	143
47	79	1998.09.25～10.01	済州	康忠男(大阪)	文京一	3	6	3	12	1位	177
48	80	1999.10.11～10.18	仁川	鄭進(長野)	金七福	2	6	3	11	1位	119
49	81	2000.10.12～10.18	釜山	金海經(奈良)	安有恒	7	8	5	20	1位	175
50	82	2001.10.10～10.16	忠南	盧光善(大阪)	金順英	6	3	7	16	1位	125
51	83	2002.11.09～11.15	済州道	金洪斤(神奈川)	金一波	3	5	6	14	2位	150
52	84	2003.10.10～10.16	全北	鄭進(長野)	姜玄哲	2	0	8	10	1位	176
53	85	2004.10.08～10.14	忠北	朴安淳(東京)	李鍾官	9	2	2	13	1位	171
54	86	2005.10.14～10.20	蔚山	金昭夫(東京)	韓龍化	5	3	2	10	1位	235
55	87	2006.10.17～10.23	慶北	南照男(東京)	金泰珍	11	7	5	23	1位	216
56	88	2007.10.08～10.14	光州	金順英(大阪)	趙靖芳	3	5	8	16	3位	205
57	89	2008.10.10～10.16	全南	羅基祖(東京)	姜玄哲	6	2	10	18	2位	151
58	90	2009.10.18～10.26	大田	柳箕桓(東京)	金泰珍	6	2	4	12	3位	177
59	91	2010.10.06～10.12	晋州	金昭夫(東京)	韓龍化	8	3	6	17	1位	251
60	92	2011.10.06～10.12	京畿道	金漢翊(大阪)	金一波	8	3	6	17	2位	151
61	93	2012.10.11～10.18	大邱	千柄勝(東京)	李壽源	13	5	4	22	1位	189
62	94	2013.10.18～10.24	仁川	鄭進(長野)	南圭吉	17	6	6	29	1位	170
63	95	2014.10.28～11.03	済州道	金炳鍾(大阪)	梁英守	14	5	5	24	1位	220
64	96	2015.10.16～10.22	江原道	朴平造(北海道)	千正己	10	4	6	20	1位	130
65	97	2016.10.07～10.13	忠南	李光複(宮城)	尹源一	12	4	4	20	1位	125
66	98	2017.10.20～10.26	忠北	権五雄(滋賀)	権五仁	7	4	6	17	1位	153
67	99	2018.10.10～10.18	全北	千憲司(東京)	成正幸	11	8	4	23	1位	147
68	100	2019.10.04～10.10	ソウル	呉公太(長野)	許孟道	5	6	12	23	3位	132
69	103	2022.10.07～10.13	蔚山	孫榮泰(東京)	金利中	7	6	6	19	2位	128
70	104	2023.10.13～10.19	全南	姜英之(東京)	李圭亮	9	2	9	20	2位	129

※第62回大会までは国内総合順位。第63～67回大会は順位対象外。第68回大会から「海外同胞の部総合表彰」導入。第69回大会はソウル五輪開催年のため順位はなし。38、39回大会は記録がないが参加している。第101回慶北大会は新型コロナウイルス感染拡大のため延期(回数のみカウント)、第102回慶北大会は19歳以下の開催、大学・一般・海外同胞の部は中止。

参加回数 70回
金 327
銀 205
銅 238
計 770
参加累計 9319人



結団式

見せよう!在日の底力

11競技のアスリートが誓う



結団式に臨む在日同胞選手団

開会式に先立って行われた結団式は10月12日、在日同胞選手団の宿所、シャングリアビーチホテルで開催しました。木浦市関係者らが参席し選手団を激励しました。在日本大韓体育会の地方本部と各競技団体役員や参観団も激励に駆けつけました。

崔相英在日本大韓体育会会長が「選手皆さんは待ち望んでいた韓国国体だと思う。この間、鍛えた技量を母国の舞台でしっかり発揮してほしい」と呼びかけました。また、柔道女子の許海実選手が韓国代表として各種国際大会で優勝するなど、世界に羽ばたく在日同胞選手の活躍を紹介し、来年のパリ五輪ではぜひ、メダルを獲得してほしい」と期待を寄せました。

姜英之選手団長は「スポーツは参加することに意義があると言われますが、とにかくこの間、鍛え上げた力を発揮出来るようバックアップしていく」と述べました。

許海実選手がビデオメッセージ

尹徳敏駐日韓国特命全権大使と在日同胞3世女子柔道選手で韓国代表の許海実選手からビデオメッセージが寄せられました。

許海実選手は「初めて韓国国体に参加したときはとても緊張しましたが、この国体がきっかけとなり、大きな夢を持つことにつながりました。みなさんも、この韓国国体で自分の力を出し切って、最後まで頑張ってください。応援してます」とエールを送りました。



あいさつを述べる崔相英在日本大韓体育会会長



在日同胞選手団を激励する木浦市の金ビョングッ企画青年局長

尹大使も「在日本大韓体育会は設立以来、スポーツを通じた在日同胞の和合と交流に貢献し、特に、次世代のアイデンティティーの発露に大きな影響を与えてきました」としながら、「1953年の設立以来、在日同胞アスリートたちが祖国の代表選手になる夢を成し遂げるため、韓国国体に多くの選手を派遣し続けてきました。このことが、世界各国の同胞選手が韓国大会に参加するきっかけになりました。私も、皆さんの先輩たちがオリンピックなど国際大会で韓国代表として活躍して姿を見てきました。スポーツを通じて在日と世界の同胞がひとつに結束する姿を見せたい」と述べました。

選手を代表して尹準熙選手（テニス男子）と金炯珠選手（スカッシュ女子）が「全力で競技に臨み在日同胞代表選手としての底力を示す」と力強く選手宣誓しました。

続いて、新韓銀行から在日同胞選手強化のための激励金、木浦市から記念品が伝達されました。この後、在日本大韓体育会の宋基泰顧問が選手たちの活躍を期して乾杯の音頭を行いました。



許海実選手はビデオメッセージを通して「自分の力を出し切って最後まで頑張してほしい」とエールを送りました



尹徳敏大使は「スポーツを通じて在日と世界の同胞がひとつになる姿を見せたい」と期待を寄せました



選手を代表して尹準熙選手（テニス男子）と金炯珠選手（スカッシュ女子）が力強く選手宣誓



各競技別に選手たちが意気込みを述べました
(写真はテコンドー)



新韓銀行から在日同胞選手団に激励金が伝達されました



木浦市から在日同胞選手団に記念品が伝達されました



開会式

母国でのびのびプレー 木浦市初開催でスタンドは歓迎ムード



手を振りながら入場行進する在日同胞選手団

韓国のスポーツ祭典である第104回全国体育大会が13日、「韓国の味の首都」と呼ばれる木浦で華麗な開幕を行い、1週間の熱戦に突入しました。

全羅南道では15年ぶりで、木浦市は1897年開港以来、初めてメイン開催地としました。韓国国内と海外同胞あわせて、選手団と役員3万人余りが参加し、木浦市を中心に全羅南道一円の70競技場で49種目の競技が行われました。

メインスタジアムである木浦総合スタジアムには尹錫悦大統領夫妻と李起興大韓体育会長、柳仁村文化体育部長官、金瑛録全羅南道知事、朴洪律木浦市長など1万4000人余りが参加した中で開催されました。

開会式は午後5時20分に式前アトラクションがスタートし、午後6時20分に来賓入場と開会宣言で公式行事の開始を知らせました。

この後、在日同胞を先頭に18カ国海外同胞選手団と17の市・道選手団が次々と入場しました。



笑顔を見せながら入場行進する在日同胞選手団



スタンドでは尹錫悦大統領夫妻が手を振って選手たちを歓迎

尹錫悦大統領は開会式の祝辞を通じて、「韓国がスポーツ強国に成長するのに心強い土台となった全国体育大会の成功的な開催を祈り、スポーツ産業の発展、エリートスポーツの振興と体育人の福祉向上のために努力する」と明らかにしました。あわせて大統領は韓国国民の誰もがスポーツを公正に享受できるようにするとの意志を示し、地域スポーツインフラ拡充および疎外階層と障害者スポーツ権利保障なども約束しました。

オープニングは雄大で洗練された木浦総合スタジアムの真ん中で「胎動せよ、胎動の全羅南道」をテーマに繰り広げられる幻想的な雰囲気 연출しました。

記念コンサートは国内トップクラスのK-POPアーティストが出演し、木浦総合スタジアムに大会成功の熱気を吹き込みました。



歓迎会

地域市民が一体で奉仕 24時間体制で海外同胞選手団を支援



世界18カ国・地域の海外同胞選手団代表が一堂に会した歓迎晩餐会



歓迎の挨拶をする金瑛録全羅南道知事

10月16日、木浦市の南岳スカイウェディング・コンベンションで開かれた全羅南道主催の海外同胞選手団の歓迎晩餐会は、金瑛録全羅南道知事、朴洪律浦市長、チョン・ジュヒョン世界韓人体育会連合会長（在米同胞）と日本、米国、豪州、英国、中国など、18カ国・地域の海外同胞選手、約1000人が参加し、各国選手団の交流を深めました。

全羅南道立国楽団の華麗な公演で始まった、歓迎会は表彰牌と感謝牌、奨学金授与、記念撮影の順で行われました。

世界韓人体育会連合会から全羅南道のスポーツ有望学生に奨学金が伝達されました。

金知事は「海外同胞選手団がベストコンディションで試合に臨み、不便なく滞在できるよう万全の準備を終えました」としながら、「今回の国体を韓国スポーツ大祭典とともに韓民族和合と祝祭の場として開催します」と歓迎のあいさつを述べました。

車両から案内まで配慮

全羅南道では歓迎晩餐会をはじめ、母国を訪れた選手団の便宜を図るため、国別支援専担チームを構成し、入国から出国まで24時間現場密着サービスを行いました。

また、全羅南道と木浦市では選手たちのスムーズな移動のために、専用バスとレンタカーを配備し、各国同胞選手団の宿所にはボランティアと道や市の職員が配置され、便宜を図りました。



在日本大韓体育会・九州本部の任隆二会長にも表彰牌が贈られた



サッカー

決勝戦、PK戦制し連覇



在米同胞とPK戦の末、優勝を飾り歓喜の在日同胞イレブン



決勝戦で同点ゴールを決め喜び合う在日同胞イレブン

サッカー海外同胞の部は10月14日から18日まで木浦市の「国際サッカーセンター」で行われました。

出場12チームが3チームずつ、4組に分かれて予選リーグを戦い、各組1位が準決勝に進出するルールで行われました。

在日同胞は在中国同胞、在フィリピン同胞と同組に入りました。

在日同胞の初戦は10月14日、在フィリピン同胞。開始早々から圧倒的な攻撃力を見せつけて、8-0と圧勝しました。

翌日、在中国同胞との第2戦では、在日同胞が開始早々から果敢に攻め込み、前半15分に相手選手がゴー



PK戦となった決勝戦で在米同胞6人目がゴールを外し優勝の瞬間

ル前で在日同胞選手に危険なタックルで倒し、これがペナルティキックとなりました。

これをしっかり決め、先制した在日同胞はその後、2点を加え3-0で前半を終了。

後半に入っても在日同胞の攻撃は止まらず、3点を追加し、結局6-0で大勝しました。これで勝ち点6（得失点差+14）とし、グループ1位が確定し準決勝進出を決めました。

17日の準決勝は在香港同胞、在ブラジル同胞に連勝



在中国同胞戦でも在日同胞のゴールラッシュ

した在英国同胞と対戦。正確なパス回しとスピードに勝る在日同胞が5-0と快勝した。

18日に行われた決勝戦の相手は宿命の在米国同胞との戦い。前半、在米国同胞に先制点を許すも、すぐに同点に追いつき振り出しに戻しました。後半は再三、在日同胞が攻め込みましたが、全員守備で守り抜く在米国のゴールネットを揺らすことが出来ず、試合終了。

結局PK戦にもつれ込み、4-3で勝利し3大会5年ぶりの優勝を飾った昨年に続き連覇を果たしました。

◆在日同胞チームの結果

▽予選リーグ第1節 10月14日 11:10

○在日同胞 8-0 在フィリピン同胞●

▽予選リーグ第2節 10月15日 11:10

○在日同胞 1-1 在中国同胞●

▽準決勝 10月17日 11:10

○在日同胞 5-0 在カナダ同胞●

▽決 勝 10月18日 11:00

○在日同胞 1-1 在米国同胞●

(PK 4-3)

在日本 ×○○○×○ 4

在米国 ○××○○× 3

最終結果 優勝



在中国同胞戦で追加ゴールを決めこのパフォーマンス



在中国同胞を終始圧倒した在日同胞



連覇を喜び合う在日同胞サッカーチームと役員たち



柔 道

パリ五輪をめざし



銅メダルを獲得した小川晟矢選手(写真右端)

国内種目の柔道は順天市の八馬体育館で10月13日から競技がスタート。

在日同胞選手は国内所属2人、在日同胞所属2人、あわせて4選手がエントリーしました。

国内所属は世界ランキング6位で韓国代表の許海実(女子-57kg級=20、慶北体育会)と同53位の許湖音(女子-52kg級=18、慶北体育会)姉妹と金知秀(女子-63kg級=22、慶北体育会)が出場しました。

在日同胞所属では、13日、小川晟矢選手(男子大学-81kg級、天理大4年)が昨年に続き、銅メダルを獲得しました。また、17日に行われたU18女子-63kg級で金智賢選手(高校1年)が準々決勝まで勝ち進みましたが、指導3回をとられ、惜しくもメダルを逃しました。

小川晟矢選手は「サポートしてくださった在日チームの皆さんのおかげで、試合に集中でき、良いコンディションで試合に臨めました。3位に入賞することができましたが、在日韓国代表として世界で活躍する選手になれるよう精進していきます」と意気込みを見せていました。

松永昴大選手(男子一般-73kg級)は予選で敗退したものの、「今



パリ五輪への期待が高い許海実選手

回様々な方の支援があって畳に上がったので大変感謝しています。試合前の雰囲気、会場、審判、柔道のスタイルが全て日本と違う中で試合ができたことは自分にとって大変いい経験になりました。結果で少しでも恩返しすることができなかったのが申し訳ないのとは大変悔しいです。色々思うことはあったとしても負けは負けなのでしっかり自分と向き合い次は必ず勝ちます」と述べていました。

準々決勝で「指導」の累積でメダルを逃した金智賢選手(女子U18-63kg級)も

「自分は今回の試合で自分に足りない物に多く気づくことができました。また日本と韓国の柔道スタイルの違いもわかり早く体で覚えてその時その時で対応できる技術を育てたいです。そして自分がほんとに足りないと思ったのは気持ち的な部分です。韓国の選手は目の前の相手に勝つということに命をかけていて、自分にはまだ覚悟が足りないと感じました」と述べていました。



国家代表をめざす小川晟矢選手

一方、韓国代表入りしている許海実、許湖音、金知秀の3選手はいずれも慶尚北道所属として出場しました。国体直前に開かれた、杭州アジア大会にも出場した許海実選手は貫禄の金メダルを獲得、許湖音、金知秀は予選敗退となりました。

なお、11月18、19日に行われたオセアニア地域で開催される柔道の国際大会、ワールドツアーの「オセアニアオープン・パース2023」で、許海実は金メダル、金知秀は銅メダルを獲得しました。

◆在日同胞選手の結果

10月13日

小川晟矢(男子大学の部-81kg級) 銅メダル

10月14日

松永昴大選手(男子一般の部-73kg級) 1回戦敗退

10月17日

金智賢(高校1年)

女子U1-63kg級 ベスト8



ボウリング

久々のメダル量産



久方ぶりにメダルを量産したボウリングチーム

ボウリング海外同胞の部は男女が別会場で実施されました。いずれも木浦市内で男子はハニョン・シネマボウリングセンター、女子は南嶽パーフェクトボウリング場です。

10月14日の個人戦を皮切りに、15日2人戦、16日3人戦、17日5人戦、18日のマスターズまで、5日間競技が続けられました。男女5種目ずつ、合わせて10個の金メダルが狙える競技だけに、金メダルを量産したチームが在外同胞の部、総合順位に大きく影響する最も期待が高い競技です。

かつて、女子では在日同胞が全種目を総なめにしたこともありましたが、ここ数年は各国同胞も精鋭メンバーで臨んできています。

競技初日の女子個人戦では黄聖姫選手が金メダルを獲得し、さい先良いスタートを切りました。勢いに乗った在日同胞は3人戦では男女そろって銅メダル、5人戦では女子が2015年の江原道大会以来の金メダルを獲得



5人戦で金メダルを獲得した在日同胞ボウリング女子チーム

しました。男子も3位と健闘しました。

18日のボウリングの最終種目、女子マスターズでは金光子選手が接戦を制して金メダル、朴祥子選手が銅メダルを追加しました。

4日間の競技における個人総合点の上位10選手に出場権が与えられるマスターズには、いずれも安定したスコアを維持してきた女子の朴祥子選手が4位、金光子選手が8位で通過しました。マスターズは10選手が1対1でスコアを競う総当たり戦で、勝者には勝利ポイント10点が加点され、9ゲームの総合ポイントにより、10ゲーム目は順位決定戦となります。

金光子選手は2位の在フィリピン同胞選手と頂点を競い、わずか2ピン差で優勝をつかみました。

◆在日同胞選手の成績

10月14日 個人戦

- ▽男子 陳珉皓6位/韓新悟13位/宋在豪17位
李相勲29位/安吉秀33位/吳官律38位
- ▽女子 黄聖姫 金メダル
朴祥子4位/金光子8位/車恩伊25位
金侖勁28位/金善英 33位

10月15日 2人戦

- ▽男子 陳珉皓、吳官律 5位
韓新悟、宋在豪 15位
安吉秀、李相勲 16位
- ▽女子 黄聖姫、朴祥子 5位
車恩伊、金光子 8位
金侖勁、金善英 16位

10月16日 男女3人戦

- ▽男子 陳珉皓、宋在豪、韓新悟 銅メダル
安吉秀、吳官律、李相勲 4位
- ▽女子 黄聖姫、朴祥子、金光子 4位
車恩伊、金侖勁、金善英 11位

10月17日 男女5人戦

- ▽男子 銅メダル
韓新悟、陳珉皓、宋在豪、李相勲、安吉秀、吳官律
- ▽女子 金メダル
黄聖姫、朴祥子、金光子、車恩伊、金侖勁、金善英

10月18日 男女マスターズ

- ▽男子 陳珉皓 6位
- ▽女子 金光子 金メダル
朴祥子 銅メダル



テコンドー 海外同胞部全員メダル



海外同胞の部で5選手がメダルを獲得したテコンドーの在日同胞選手

テコンドーは海外同胞の部のほか、国内種目にも出場しました。いずれも長興室内体育館で開催されました。海外同胞の部は10月17日の単日開催です。

海外同胞の部には、男子3人、女子2人の選手を派遣しましたが、全選手がメダルを獲得しました。

金秀範選手（男子+80kg級）と加藤柚帆選手（女子-57kg級）、崔嘉愛選手（女子+67kg級）が金メダルを獲得しました。金秀範選手は8連覇の快挙です。

また、李済暉選手（男子-58kg級）と文仁選手（男子-68kg級）は銀メダルを獲得し、合計5個のメダルを獲得しました。

国内種目に出場した文太一選手（男子U18-54kg級）と加藤貴士選手（男子U18-68kg級）はともに善戦したものの、1回戦で敗退しました。

◆在日同胞選手の結果

金秀範（男子+80kg級）	金メダル
加藤柚帆（女子-57kg級）	金メダル
崔嘉愛（女子+67kg級）	金メダル
李済暉（男子-58kg級）	銀メダル
文 仁（男子-68kg級）	銀メダル
文太一（男子U18-54kg級＝国内種目）	1回戦敗退
加藤貴士（男子U18-68kg級＝国内種目）	1回戦敗退



得意のトルリョ・チャギ（廻し蹴り）で8連覇した金秀範選手（右）



決勝戦で在グアムの選手を圧倒して優勝した加藤柚帆選手（右）



テニス

尹準熙が雪辱果たす

女子は銅2個

テニス海外同胞の部は男女シングルスとダブルスの全4種目を競い、予選ラウンドが10月14、15の両日、木浦現代テニスコート、準決勝と決勝は16日に浮珠山テニスコートで開催されました。

在日同胞は男子がシングルス、女子はシングルスとダブルスにエントリーしました。

男子シングルの尹準熙選手は金メダル、女子シングルの崔菜月選手は銅、女子ダブルスでは昨年優勝した崔菜月、咸銀栄組が準決勝で在米同胞に逆転負けし、銅メダルにとどまりました。

昨年、決勝で惜しくも敗れ銀メダルでしたが、雪辱を果たした尹準熙選手は「優勝できたことに満足しています。また、世界の同胞テニスプレイヤーとも交流ができ、この韓国国体の経験を生かして今後、さらに成長していきたい」と述べていました。



男子シングルスで金メダルを獲得した尹準熙選手



女子ダブルスで銅メダルを獲得



◆在日同胞選手の結果

尹準熙（男子シングルス） 金メダル

崔菜月（女子シングルス） 銅メダル

崔菜月、咸銀栄（女子ダブルス） 銅メダル



スカッシュ

金炯珠が銀メダル



銀メダルを獲得した金炯珠選手(右から2人目)と喜び合う崔相英会長(右)、李圭亮総監督(左)、小林瑛実監督(左から2人目)

スカッシュ海外同胞の部は10月14、15の両日、羅州スカッシュ専用競技場で開催されました。

今年は各国同胞も若手の実力者を揃えて、レベルの高い試合が続けられました。

それでも、昨年の蔚山大会で金メダルを獲得した女



結団式でメダルへの意気込みを見せていた金炯珠選手

子の金炯珠選手は14日の予選リーグ全勝と実力を発揮し、1位で15日の決勝トーナメントに進出しました。

決勝トーナメントでは準決勝も勝ち抜き決勝戦に臨みましたが、惜しくも銀メダルにとどまりました。

金炯珠選手は「今年はスカッシュチームとしてはひとりでの参加だったことで不安もありましたが、運営本部や他競技の選手たちに支えて頂き、何不自由なく競技に挑むことができました。本当にありがとうございました」と、決戦を終えてほっとした感じでした。

あわせて、「惜しくも準優勝となってしまい、悔しい気持ちもありますが、来年に向けて練習するモチベーションが高まりましたので、より一層、練習に励みたいと思います」としながら、「今年は年齢の近い選手が多く参加していたこともあり、他の国の選手との交流もできました。この韓国での出会いと関わりを今後も大事にしたいと思います」と笑顔を見せていました。

◆在日同胞選手の結果

金炯珠(女子) 銀メダル



卓 球

女子優勝、男子は銅



圧倒的な強さを見せた池松怡選手 (写真奥)



銅メダルを獲得した元鍾選手(左) 個人戦は男女そろって、予選リーグを1位で通過し、混合ダブルスは惜しくもベスト8で敗退しました。

日本体育大学の卓球部に所属する池松怡選手(1年)は今年6月に行われた2023年度関東学生卓球選手権・女子ダブルスの部に出場し、ベスト8の成績を収めている実力選手。

池松怡選手は準決勝を勝ち進み、決勝戦もストレートで完勝し、金メダルを獲得しました。

男子の元鍾選手は準決勝で惜しくも敗退し銅メダルにとどまりました。

池松怡選手は「関係者皆様の応援のおかげで優勝することができました。実力を発揮することができ、こ

卓球は16日に務安郡の全羅南道スポーツ会館で親善マッチ、本戦は10月17、18の両日、木浦室内体育館で行われました。

17日は男女個人戦と混合ダブルスの3種目の予選リーグ、18日に決勝トーナメント(準決勝、決勝)が行われました。

在日同胞は女子個人戦に池松怡選手、男子個人戦には元鍾選手がエントリーし、両選手で混合ダブルスにも出場しました。



金メダルを獲得した池松怡選手

れからの自分へのモチベーションと経験を持つことができました。更なる上を目指し懸命に努力して行きたいと思います」と述べ、元鍾選手も「初めて韓国国体に参加させて頂き、ありがとうございました。本部の皆様には何から何までお世話になり本当に感謝の気持ちです。金メダルで恩返したかったのですが、とても残念な気持ちの半面、来年こそ恩返しができればと思います。

海外同胞の皆様にお会いできてとても良い経験でした」と、韓国国体初参加に喜びを見せていました。



総合3位のカップを手にする李信子在日同胞卓球監督(右端)

◆在日同胞選手の結果

池松怡(女子シングルス) 金メダル

元 鍾(男子シングルス) 銅メダル

池松怡・元 鍾(混合ダブルス、ベスト8)



剣道 準決勝、大将戦で惜敗



準決勝で昨年の覇者、在ベトナム同胞チームに接戦の末、惜しくも敗れ3位だった在日同胞剣道チーム

第100回ソウル大会から在外同胞部門の正式種目に加わった、剣道の団体戦は10月14日、靈光スポーツウム国民体育センターで開催されました。

在日同胞のほか、参加国は、在ベトナム、在米国、在フィリピン、在中国、在香港、在ブラジル、在インドネシアの8カ国でした。

昨年、銀メダルだった在日同胞チームは準決勝で昨年の覇者、在ベトナム同胞と激突。同点の末、代表戦までもつれる接戦でしたが、惜しくも敗れ、銅メダルに終わりました。

剣道5段の高橋忠志選手は「準決勝でベトナムに敗れて、3位でした。ベトナムには昨年も決勝でも敗れたこともあり、リベンジしたかったのですが、力及びませんでした。ベトナムに連敗したことになります。次回は必ずベトナムを倒して優勝したいと思います」と来年

のリベンジを誓っていました。

◆在日同胞選手の結果

準決勝

対在ベトナム同胞＝敗戦

最終結果 銅メダル

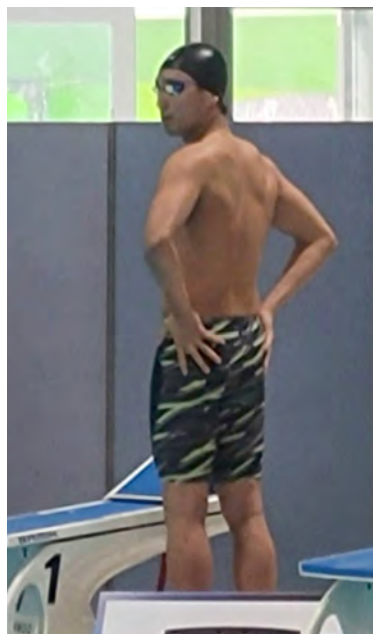




水 泳

劉政頻が5位入賞

国内種目の水泳・競泳は10月14日から19日までの6日間、木浦室内水泳場で開催されました。



劉政頻選手

過去に多くのメダルを獲得し韓国代表選手も輩出してきた競泳ですが、今大会に在日同胞は3選手がエントリーしました。

U18・自由形50メートルに出場した高校生の楊隆成選手は予選で敗退、一般男子自由形50メートルに出場した洪元太も予選で敗退しました。

劉政頻選手（19・近畿大学）が一般男子・自由形200メートルと400メートルに出場しました。

アジア大会金メダリスト

の黄宣優選手も出場した16日の200メートルでは1分50秒24のタイムで予選1位で通過しましたが、決勝では1分50秒51で5位入賞でした。

17日に行われた400メートルではメダルには届きませんでしたが、6位入賞を果たしました。

劉選手はソウル市出身の留学生。幼い時からハルモニに連れられてプールに行く機会があり、水の中に入るのが好き。小学校1年の時から本格的に競泳に親しみ、実力を向上し、高校1年で大阪の建国高校に留学し、高校スポーツの祭典、インターハイ2021（全国高等学校総合体育大会）に大阪府代表として出場しました。

◆在日同胞選手の結果

劉政頻	一般男子自由形400メートル	1分50秒51（5位）
	一般男子自由形200メートル	3分56秒61（6位）
楊隆成	U18・自由形50メートル	26秒03（予選敗退）
洪元太	一般男子自由形50メートル	25秒85（予選敗退）



陸 上

メダルに一步届かず

国内種目である陸上のトラックとフィールド種目は、木浦総合スタジアムで10月15日から18日まで行われました。

在日同胞は沖縄出身で九州共立大学1年生の友利晟弓（なるみ）選手（18）が女子大学円盤投げに出場しました。



メダルを逃すも4位入賞した友利晟弓選手

友利晟弓選手の母は民団沖縄本部生活部長の白淑子さん。昨年8月、那覇西高3年の時、徳島県鳴門市で行われた全国高校総体（インターハイ）陸上競技で46m46で2020年のインターハイ代替大会・全国高校大会、2021年の福井インターハイに続いて、全国3連覇を果たしました。

2人の兄の影響で小学生のころから円盤投に親しみ、豊見城伊良波中（沖縄）1年のときにジュニアオリンピックで2位に入り、中1歴代最高記録を出すなど、トップレベルだった。中2の同大会で女子円盤投げを制し、この年代でも学年別最高記録を樹立しました。

18日に行われた同種目で友利晟弓選手は惜しくも4位でメダルに一步届きませんでした。

◆在日同胞選手の結果

友利晟弓	大学女子円盤投げ	43メートル81（4位）
------	----------	--------------



閉会式 表彰式

金海で再会を誓う 来年は慶尚南道、2年後は釜山で



閉会式ではオリニ（子ども）合唱・舞踊団の公演が披露された

全羅南道で開催された第104回全国体育大会が7日間の旅程を終えて幕を閉じました。

「生命の地、全羅南道、ともに飛ぼう大韓民国」をスローガンに15年ぶりに全羅南道で華麗な幕を上げた全国体育大会。全国の市・道の選手たちと海外同胞選手団まで歴代最大規模の3万人が参加し、7日間熱戦を繰り広げました。

次期開催地の金チャンス・慶尚南道体育会企画調整本部長は「交通の流れや宿泊問題が円滑にうまくいったのではないのでしょうか。良い評価を得ています。この運営を参考に来年の慶尚南道大会の準備に万全を期したいと思います」と述べた。

特に、国際大会に匹敵する開・閉会式の演出と競技期間中は全羅南道各地で各種文化イベントが並行開催され、「文化体育大会」を確立したとの評価を受けました。

公認の一種陸上競技場である木浦総合スタジアムをはじめ、5つの競技場が新設され、70余りの競技場を改修してスポーツ産業を活性化する土台を作りました。

国体開催を契機に全国単位の競技誘致など、地域に及ぼす経済効果も拡大するものと期待されます。

慶尚南道、釜山へと続く

全羅南道で盛り上がった全国体育大会の熱気は2024年慶尚南道、2025年釜山へと続きます。



閉会式で金瑛録全羅南道知事（左から2人目）から次回開催地の慶尚南道に引き継がれた

慶尚南道と釜山は、全国のスポーツ関係者の熱い情熱を花咲かせる基盤づくりに力を入れています。

第105回全国体育大会は2024年10月11日から17日まで、金海市を中心に慶尚南道一円の18市郡で行われます。

金海市は①希望を抱いて皆が楽しむハッピースポーツ大会②市民参加で作る疎通と和合のスポーツ大会③環境にやさしいスポーツ大会④スポーツと文化が調和した文化体育大会—をコンセプトに定め、大会準備を進めています。

金海市は亀山洞に金海総合スタジアムを新たに建設しています。完成すれば、地下5階、地上3階、延べ面積6万8370㎡、観覧席1万5066人収容の規模となります。2024年4月末の竣工を目標に工事の真っ最中です。

ボウリング、1点の重み実感

河政男(ボウリング・男子監督)

先ずは崔相英体育会長、姜英之選手団長、李圭亮総監督をはじめ役員、関係者の皆さんに、この間のボウリングチームに対するご配慮に監督として心よりお礼を申し上げます。

もっとも有り難かったのは、宿所が試合会場までごく近距離(男子は徒歩5分、女子は車15分ほど)だったことです。この良好な環境が近年にない金3個、銅3個という好成績に良い影響を与えたことは否定できないと思います。感謝に絶えません。

今大会は参加選手にとっても1点の重み、重要さを実感する貴重な経験にもなりました。女子個人戦では1点差で銅メダルを逃す一方、男子団体3人戦では在日同士の2チームが接戦の末、1点差で銅と4位に順位を分け、女子団体5人戦では僅か5点差でウルトラCのような大逆転で優勝を成し遂げ、女子個人マスターズ戦でも2点差で2位をかわしての金と、まさに僅少差での劇的な場面が連続しました。今大会での教訓は「1点の重要さ」でした。1点の貴重さを体験した選手の皆さんには、来年はもう一回り成長した姿を見せて頂けるものと期待しています。

選手の皆さん、そして選手を裏で支えて頂いたマネージャーの皆さん、本当にお疲れさまでした。最後になりますが、国体出場に向けご支援を頂いた皆様方に心より感謝申し上げます。

呉俊洙(ボウリング・コーチ)

選手ではなくマネージャーとして参加した104回木浦大会。その結果、海外同胞の部で総合2位という優秀な成績になりました。本当は選手として出場したかった



のですが、選抜大会で敗れ、マネージャーとしてチームに参加することになりました。ここまで、色々な思いを積み重ねてきただけに、忘れられない大会となりました。来年は選手として参加して授賞台に上がる姿を想像しながら練習に励むつもりです。最後に在日本チームファイト！

裴正澧(ボウリング・女子監督)

今回の国体にはチームスタッフとして参加し久しぶりにみんなと会えて嬉しかったです。男女全員がメダルを手にしたことは素晴らしい結果でした。特に、最後まで諦めずに投げ、逆転での金メダルが確定した女子5人戦のあの瞬間は忘れません。みんな、おめでとうございます。来年またお会いにすることを楽しみにしています。

韓新悟(ボウリング・男子)

この度は顧問団、引率団、選手団の多くの方々に支えられ第104回韓国国体を終えることが出来ました。私は前大会同様、在日本大韓ボウリング協会の会長兼選手としての出場となりました。今大会は金メダル3個、銅メダル3個とボウリング協会は健闘出来ました。素晴らしいチームメイト、監督、マネージャーに恵まれ十分な準備ができ、チーム一丸となって強い気持ちで国体に臨む事が出来ました。ボウリングを通じてこのような経験と素晴らしい人との繋がりは一生の財産ではないかと感謝しております。ボウリング協会を日頃から支えて頂いているの方々には心より御礼申し上げます。

チーム一丸で掴んだメダル

す。来年は金メダル5個以上を目指し獲得出来るチーム作りに精進してまいりますので、引き続きボウリング協会を何卒宜しくお願い致します。

陳珉皓 (ボウリング・男子)

ボウリングを始めてから3度の選抜選の末に初参加を果たした国体でした。選手と監督、スタッフが一丸となって期待以上の成績と負傷もなく大会を終えることができてとても嬉しいです。

特に3人戦、5人戦での奇跡のような大逆転は一生忘れないと思います。「もう少しミスをしてなかったら」などと悔しい思いも残りますが、一日一日が幸せな時間でした。今回の大会をきっかけに足りない部分を補って一層成長した姿で来年も参加したいと思っています。

宋在豪 (ボウリング・男子)

第104回木浦全国大会を準備してくれた在日本大韓体育会、そして在日大韓ボウリング協会会長はじめ、監督とチームスタッフの皆さんに感謝します。木浦大会ではボウリングチームが一つになって準備し試合をすることになって良かったです。

成績も良くて本当に嬉しかったです。先輩たちの情熱闘志を見て多くを学びました。素晴らしい仲間と一緒にメダルを獲得することができました。チームメイトに感謝します。個人的には不甲斐ない成績で、来年はさらに一生懸命練習し、木浦大会の不振を必ずや挽回し、チームメンバーと団体戦の金メダルを獲得できるよう努めます。在日本ボウリングチームファイティング!!

李相勲 (ボウリング・男子)

初参加で緊張もしましたが、ボウリングチームの皆さんと団結して良い成績を残すことができてうれしいです。ボウリングでは金メダル3個と銅メダル3個を獲得し、チーム総合順位では3位となりました。在日本選手団の海外同胞の部総合2位にも多少なりとも貢献できたことが喜ばしく、その盛り上がる雰囲気と共に味わうことができて良かったです。また、来年も機会があれば参加し、今年より更に良い成績を出したいと思っています。最後に、関係者の方々に感謝いたします。

安吉秀 (ボウリング・男子)

今回練習で手首を腱鞘炎で怪我してチームに貢献ができず申し訳ございませんでした。全体成績は良かったと思います。韓新悟会長を中心にチームワークもムードも良く皆さんは実力を発揮できたのではないのでしょうか。体育会、チームスタッフのおかげで快適な環境で試合ができました。感謝します。来年に向けて練習に励み頑張ります。

呉官律 (ボウリング・男子)

2回目の国体参加となり、去年よりも更に力入れて、韓国に出発しました。初日の個人戦はあまり良い結果は出せなかったですが、昨年の経験もあり、団体戦の大事さを分かっていたので、次の試合だけを考えました。

2人戦、3人戦と上々に成績も上向き、チームワークも良くなり、どんどん盛り上がりました。とくに3人戦は同じ在日本チームと激しくも楽しい競争のイメージで打ち合い、お互いにどんどん盛り上がり、3位と4位の成績も点差はわずか1点でした。これをきっかけに1点の大事さを感じられ、5人戦では一点一点にとえも集中できたと思います。

国体ボウリングの華である5人戦が始まり、選手全員が気合いを入れて、スタートしました。5人戦に入れなかった選手も頑張ってお互いに気持ちを託しながら、5人戦の銅メダルという結果を残しました。

当日は6人全員が首にメダルをかけ日本に帰れるだけで嬉しかったですが、後から考えれば、もしもう少し点数を出していたら銀、金メダルも期待できたかなという悔しさもありました。この気持ちも忘れずに、来年の宿題として金銀メダルを目指していきたいと思っています!

今年1番良かったのはメダルを獲得したこともあります。が、何より自分だけでなく、周りのメンバーも考えられるチームワーク。これが1番だったと思います。

朴祥子 (ボウリング・女子)

引率団長をはじめ役員の皆様、事務局の方々、本当にありがとうございました。

今年は、初めて男女別々の会場で開催され、あわせて、レーン数も少ないため、2シフトでの試合形式とな

各国同胞とのつながり大切に

りました。

事前にオイルパターンを想定した合宿及び練習会を行いました。本番はなかなかスコアをまとめられず、5人戦の最終ゲームで5人が最高のボウリングができ、奇跡的に金メダル獲得できました。

日々変わっていくレーンコンディションの中、声を出し合いながら、久しぶりの5人チーム戦で金メダル。年齢的にも体力的にも厳しいと感じながらも素晴らしいメンバーと共に投げられた事に感謝しかありません。

マスターズ戦では銅メダルでしたが、同じ在日メンバーが、金メダルに輝き一緒に表彰台に立つことができました。本当に素晴らしい仲間と共に厳しい日程を過ごしながら、記憶に残る感動的なボウリング大会となりました。

実は、昨年から、選手としての参加は、年齢的にも体力的にも、そろそろ卒業させていただくことを考えておりましたところ、今回の素晴らしいメンバーと共に最高の結果で終わる事ができましたので、悔いなく終わることができます。

2002年から参加し、途中仕事の関係や、コロナ禍による不参加も含めて16回の国体を経験させていただきました。本当にありがとうございました。一方で、まだまだ現役でという温かいお言葉をいただきますが、若い選手の足かせにならないためにも、いつかはこんな引き際があつていいと勝手に決心しました。

ご理解いただくとともに、引き続き、ボウリング競技にご支援、ご尽力いただきますよう心からお願い申し上げます。

金光子(ボウリング・女子)

先ず、この度の木浦での国体にボウリング選手として参加させて頂き心より感謝致します。初日の個人戦が始まり、自分の納得のいく成績が出ないまま2日目のダブルス戦、3日目のトリオ戦と続いていきましたが、個人の順位は少しずつ上がっていったので、マスターズに残る事を一つの目標にしていました。嬉しいことに8位でマスターズに残る事ができ、とにかく最後まで諦めずに、一投一投、自信を持って投げる事だけに専念しました。

10ゲーム投げる間の自分の順位や他の選手のスコアも一切気にせず、ひたすら投球の事だけに集中し、



対戦相手に勝利する事を。10ゲーム全てが終わり、2位の選手と最後の最後まで競り合っていた事、私が優勝した事を聞かされて驚きしかありませんでした。

私は7年ほどボウリングのブランクがありますが、今年再開して国内選抜大会～そして7年ぶりに国体に参加して念願のマスターズで金メダルを取れるなんて！

思ってもいなかった結果に今は只々、喜びでいっぱいです。

チーム全体の雰囲気も大変良く、チームスタッフのサポートも行き届いていてとても有り難かったです。

マスターズの金メダルの重みを実感すると共に、改めて国体に参加させて頂いた事に感謝致します。ありがとうございました。

黄聖姫(ボウリング・女子)

在日大韓体育会関係者の皆様、お世話になりました。今回、思いもよらず金2個を取れたことが未だに信じられない思いです。

大会を控え用具やボールを新調したり猛練習を重ねて来たとは言え、個人戦での金メダルは「犬も歩けば棒に当たる」ようなもので、「たまたま」という言葉がピッタリに思います。

2人戦、3人戦では思うように点数が出せず、チームメイトに迷惑をかけてしまい心残りでなりません。5人戦でも個人的にはあまり良くはなかったにも関わらず、優勝できたのはチームメイトの頑張りのおかげだと感謝の気持ちで一杯です。

今年は選手全員が集まって事前に合同練習会(合宿)が行えたことで選手同士の距離感が縮まった感があり、成績に良い影響があったと思います。在日ボウリング協会にも感謝します。ありがとうございました。

海外チームのハイレベル化痛感

金侖勁(ボウリング・女子)

初参加で、色んな思いをしながら、プレッシャーも結構感じていましたが、皆様のお陰でチーム一丸になり、良い結果を出せたので嬉しい限りです。関係者の皆様、チームの皆様にご心より感謝いたします。

一方、沢山悔いも残りましたので、もっと成長した自分になれるよう頑張ります。また元気にお会いすることを楽しみにしています。

車恩伊(ボウリング・女子)

第104回木浦全国体育大会に参加しました。一生懸命練習して参加しましたが、自身としては満足できない試合でした。

それにもかかわらず、良い成果を成し遂げたのはチームワークが良かったからだと思います。回数を重ねるごとに各国で会う同胞たちの喜びも倍になるようです。来年も一生懸命準備してもっと良い成果を上げたいです。初めて訪れた木浦は、住民の方々の親切さややはり全羅道らしい美味しいグルメに惚れました。

金善英(ボウリング・女子)

木浦全国体育大会に初出場場で初の金メダル、私には奇跡でした。初日、個人戦の時、何の準備もなく試合に臨む一部の他の海外同胞選手たちを見て少しがっかりしました。

しかし、一部の海外同胞たちにとっては故国を訪問すること自体が趣旨なのだとことを聞き、失望した私の考えが短絡的だったと感じました。来年もぜひ参加して親しくなった他の海外同胞の方々ともまた会いたいです。

李信子(皇甫麗=卓球・監督)

第104回全羅南道全国体育大会に卓球監督として参加させて頂きました。卓球種目の何れにおいても金メダル獲得を目標に挑みました。結果女子個人戦で優勝、男子個人戦で3位、混合ダブルス戦でベスト8と、総合3位でした。

男女選手共に初の国体参加となり、とても貴重な経験を積んだと思います。今回の経験を活かし来年は更にレベルアップして再挑戦します！物心両面でサポー



ト下さった体育会の皆様に深く感謝致します。本当にありがとうございました！

池松怡(卓球・女子)

この度は関係者の皆様の応援のおかげで優勝することができました。実力を発揮することができ、これからの自分へのモチベーションと経験を持つことができました。更なる上を目指し懸命に努力して行きたいと思います。コマッスンミダ。

元 鍾(卓球・男子)

初めて国体に参加させて頂き、ありがとうございました。本部の皆様には何から何までお世話になってもらって本当に感謝の気持ちです。

その分、金メダルで恩返したかったのですが、それが果たせず、とても残念な気持ちの半面、来年こそ恩返しができると思います。海外にお住まいの海外同胞の皆様にお会いできてとても良い経験でした。またお会いできることを心からお待ちしております。

감사합니다!

金炯珠(スカッシュ・女)

今年度はスカッシュチームとしてはひとりでの参加であったため、不安なこともありましたが運営本部の皆様並びに他競技の参加者の方々に支えて頂き、何不自由なく競技に挑むことができました。



スタッフのおかげで競技に集中

本当にありがとうございました。惜しくも準優勝となつてしまい悔しい気持ちもありますが、来年に向けて練習するモチベーションになりましたので、より一層練習に励みたいと思います。今年は年齢の近い選手が参加していたこともあり、他の国の選手との交流もできたので、この関わりを今後も大事にしたいと思います。

申永吉(テニス・監督)

今回、全国体育大会を準備してくださった朴相泓専務をはじめ、運営スタッフの皆さんに感謝の気持ちを伝えます。今大会は初めての準備から多くの困難がありました。それにもかかわらず、選手たちが実力を発揮し、感謝の気持ちを伝えます。他国の選手レベルがますます高くなり、私たちも多くの準備が必要だと思います。来年は準備から徹底して良い結果が得られます。ありがとうございます。



尹準熙(テニス・男子)

まず、去年はシングルス、ダブルスとも在米同胞に負け、悔しい気持ちがあったんですが、今年はシングルスで優勝でき、嬉しいです。また、この機会を活かして、これからの学生大会やフューチャーズで良い結果を残して行きたいと思います。機会があれば来年も韓国国体に出場し優勝して貢献したいと思います。

崔菜月(テニス・女子)

まず、大会運営に携わって下さった多くの方々、本当にありがとうございます。今回の大会ですが、単複銅メダルと不甲斐ない結果になってしまいました。ま



た、出場する機会があれば、絶対に金メダルを獲りたいと思います。ありがとうございました。

咸銀榮(テニス・女子)

本国体に向けて、飛行機や宿泊等の手配、大会期間中のサポートをしていただいた運営本部の方々をはじめ、監督、コーチ、応援をしてくださった在日同胞チームの選手たちに感謝いたします。おかげ様で自分の試合に集中できる環境の中で試合に臨むことができた。試合の結果については、去年同様金を目指して挑みましたが望み通りの結果には至らなかったため、今大会で学んだことや感じたことを活かして来年の国体では金を取れるように練習をしていきたいと思いました。

李泰範(柔道・監督)

初出場の選手にとっては慣れない相手に本来の力を発揮する事ができず悔しい結果になりました。今回の経験を生かして次回以降に期待したいです。大きなケガもなく終わられ、実りのある大会になったと思います。現地では様々、迅速に対応していただいて感謝申し上げます。ご支援ありがとうございました。

小川晟矢(柔道・男子)

今回サポートしてくださった在日チームの皆さんのおかげで、試合にだけ集中することができ良いコンディションで試合に臨むことができました。3位に入賞することができましたが、1ヶ月後の選抜向



世界で活躍する選手めざす

けて気持ちを切り替えて練習に取り組んでいきます。在日関係者の皆様のおかげで試合に臨めたことに感謝し、在日韓国代表として世界で活躍する選手になれるよう精進していきます。今回はサポートしていただきありがとうございました。

松永昴大(柔道・男子)

今回試合出場するにあたり様々な方の支援があって畳に上がったので大変感謝しています。試合前の雰囲気、会場、審判、柔道のスタイルが全て日本と違う中で試合ができたことは自分にとって大変いい経験になりました。結果で少しでも恩返しすることができなかったのが申し訳ないのと大変悔しいです。色々思うことはあったとしても負けは負けなのでしっかり自分と向き合い次は必ず勝ちます。

金智賢(柔道・女子)

自分は今回の試合で自分に足りない物に多く気づくことができました。また日本と韓国の柔道スタイルの違いもわかり早く体で覚えてその時その時で対応できる技術を育てたいです。そして自分がほんとに足りないと思ったのは気持ち的な部分です。韓国の選手は一人一人絶対に目の前の相手に勝つということに命をかけていて自分にはまだ覚悟が足りないと感じました。

次に組み手もまだまだ甘くチャンスといったときに技や寝技のキメが甘く日頃の練習でのことが出たのかと思います。そしてこんな遠くまでサポートしにきてくれた先生や家族にもこの結果はほんとに最低だと思えます。この気持ちを忘れず次に活かせるようまた頑張りたいと思います。

最後に、この度はこのような機会を設けていただき誠にありがとうございました。これからもっと努力してまた今の自分に足りない部分を補い絶対優勝します。

金美敬(陸上監督)

全羅南道で開催された全国体育大会に、大学1年生の選手(在日2世)をつれて初めて参加し、とても貴重な経験をしました。

今回出場した種目(円盤投げ)が大会終盤に行われ、全日程を皆様と共に出来なかったこと、開会式・

閉会式に参加出来なかったことが心名残でした。

円盤投げ競技の日には、体育会の皆様と国内の知人たちが応援して下さい、同じ同胞の温かさ、遠く離れていても韓民族の一員であることを感じる事ができました。結果はさておき、感動と名残欲しい大会でありました。

世界に散らばっている韓民族の子孫が母国に集い、連帯感と韓民族のアイデンティティを実感しながらスポーツを通じた交流を楽しむことができました。まだ、元気な姿で「アンニョンハセヨ」と、お会いできる日を期待しています。在日本大韓体育会会長をはじめとした関係者の皆様、特に朴相泓専務理事に心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

友利晟弓(陸上円盤投げ・女子)

大学1年ではじめて韓国の国体に出場し、緊張からベストなパフォーマンスを出せずに悔しい大会でした。ほかの選手の、身体の使い方や集中力を維持していく姿などを間近にみる事ができ刺激となりました。今後は今回の経験を糧にして記録を伸ばしていきたいと思っています。

今回出場の機会を与えて下さった在日本大韓体育会の皆様、ありがとうございました。



金優子(水泳・コーチ)

この度は国体に参加させていただきありがとうございました。初めての韓国での試合に、戸惑うこともありましたが、貴重な経験をさせていただきました。韓国の近年の水泳のレベルの高さも間近でみる事ができ、またその中で競うことができたこと、とても勉強になり、よい経験となりました。このような機会をいただけましたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

新たな出会いと刺激を感じた

楊隆成(水泳・男子)

この度は、このような大きな大会に出る機会をいただきありがとうございました。この大会は、私が水泳をしてきた中で最大に大きな大会で、トップクラスの選手や、韓国記録を持つ選手、自分と同じ年齢の選手でも自分より圧倒的に早い選手の中で、練習や試合ができたことは、とてもいい経験、そしていい勉強となりました。別の種目でしたが、他の選手が国内記録が出た瞬間はとても興奮しました。このような機会に恵まれましたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました！

秦昌守(サッカー・監督)

まず今回の大会に参加させてもらえた事に感謝しています。そして大会期間たくさんの方々の中プレー出来た事を感謝しています。今大会は監督して参加させてもらいましたが、期間中選手やスタッフ、関係者の方々に出会えていろいろ勉強させてもらいました。

この経験をこれからの活動で生かしてさらなる成長を出来るよう、今後とも努力して行きたいと思います。次の大会にも参加出来るよう頑張ってみますのでこれからも宜しくお願い致します。ありがとうございました。

許瑛俊(サッカー・男子)

韓国国体に参加するにあたり尽力して頂いた体育会をはじめとする関係者の皆様、ありがとうございました。個人的には怪我をしてしまいましたが、初参加、初優勝と良い形で大会を終えれたことを嬉しく思います！

在日だけでなく、各国の同胞の方々との交流は改めて自分のルーツを考える良い機会になりました。また来年も参加させて頂ければ、3連覇目指して頑張ります！引き続きよろしくお願いいたします。

姜 榮(サッカー・男子)

今回10年ぶりに参加させていただきました。まずは声をかけていただき、ありがとうございました。

10年ぶりに会った人、若い子達など中々普段同じチームでサッカーをすることがない中で、国体ならではの



の新しい出会いと刺激、新しいフィーリングを感じることができました。

僕はいま仕事でプロサッカー業界に携わっており、これまでも約15年以上この業界で仕事をしています。

今回参加した中で、大学生や20代の子でプロサッカー選手を目指す子がいました。大会後に個人的に連絡をくれた子もいました。

もちろんプロサッカー選手になることは簡単なことではないですが、こういう国体で繋がる縁は大事にしたいので、彼らが必要であれば出来る限りサポートはしていきたいと思っています。

ただその半面、プロを目指す子の中で大会期間中に、口では言うけど、行動が伴ってない子が居たのは正直残念な点でした。

また僕もこれから成長して、年齢的には選手としては若い子達と一緒にプレーするのは中々難しいですけど、スタッフでもまた声をかけてもらえれば嬉しいです。選手構成のバランス的に30代が一定数いれば、選手として頑張ります。改めてスタッフの皆さま、選手、大会に関わる全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

金康太(サッカー・男子)

18歳から国体に参加させて頂いて、今年もたくさんの出会いがあり、サッカーでも優勝することができました。この貴重な経験をさせてくれた、体育会関係者の皆様には感謝しかありません。

毎年この国体に参加する事で、自分の在日としてのルーツなど再確認できる場となっております。本当にありがとうございました。

韓国国体初出場に感無量

李晃輝(サッカー・男子)

今年で2回目の国体に参加させていただいて去年に続き今年も優勝して2連覇できたことが嬉しく思います。母国でサッカーができたことや同じ血の繋がった方達と短い期間でしたが交流ができたことで自分自身の成長にもすごく繋がったと思います。こうした素晴らしい環境を作ってくださったのも体育会やその他いろんな方達のお陰ですごくいい経験をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

この経験を活かして自分自身の成長に繋げていきたいと思っています。ありがとうございました。

張太佑(サッカー・男子)

去年に引き続き国体に参加させてもらえた事に感謝しています。国体でプレーした事によってより一層韓国でプレーしたいと感じました。国体での良い刺激を忘れず、プロ選手になる夢にむかって今まで以上に努力します

梁俊虎(サッカー・男子)

初めて参加させてもらえましたが、本当に数多くの素晴らしい経験をさせて頂くことができました。

初めて会う在日同胞の方たちと触れ合う機会を頂いたこと、大会で優勝できたこと、韓国の文化に触れ合えたことなど本当に楽しくもあり貴重な時間を過ごすことができました。普段は日本の学校に通っているためこういった在日同胞社会に触れ合うことは少ないのですが、今回ご縁を頂いて国体に参加することになり、在日同胞の方達の温かさやありがたみを改めて感



じることができました。

また、在日同胞でありながら、日本学校に通い育ち、日本の社会で日常を送っている人たちもウリハッキョに通って育ってきた人たちもみんな同じ在日同胞の一員なんだということにも改めて感じることができました。今回、こういった機会を頂いたこと、そして見えないところで選手たちが大会に集中できるように尽力してくださった国体運営の方々、本当にありがとうございました

金天成(サッカー・男子)

今回初めて、国体に参加しました。自分の故郷である、韓国で同じルーツを持った人達とサッカーができる環境を提供してくださって本当に感謝しています。また、多くの方々と出会い、たくさん刺激を受けまし



た。このような機会を経験できたこと、多くの人に出会えたことを大切にしたいと思います。

李榮洙(サッカー・男子)

今回国体に参加することができたのは、体育会の方をはじめ、自分を紹介してくださった方々、スタッフのみなさん、そしてチームメイトのみなさがいたから、自分がある場に立てたのであって、感謝の気持ちでいっぱいです。自分のルーツである、韓国の地でプレーできたのは誇りですし、あの場でプレーできているのが当たり前なのではなく、たくさんの人の支えであることを忘れずに、これからも頑張りたいと思います。

康胤二(サッカー・男子)

今大会も参加できてまた新しい人との出会いや繋がりがあるとてもいい経験になりました。ありがとうございます！今大会を経て自分の目指すべきところや足りないところなどたくさん見えてきたのでとてもよかったです。

本当に毎回手厚いサポート、応援ありがとうございます！自分がサッカーできてるのはたくさんの周りの方々のサポートの上でできることを忘れずにこれからも一生懸命夢に向かって頑張っていきたいと思います！

張賢祐(サッカー・男子)

去年に引き続き二度目の大会参加となりました。今年も優勝できたこととても嬉しく思います。この大会を通じて今年もたくさんの方々との交流が深まりました。

大会関係者の方々には感謝しかありません。来年も大会に参加する機会があれば頑張ります。体育大会を招待していただいて本当にありがとうございました。

金龍柱(金沢)(サッカー・男子)

今回13年ぶりにサッカーの競技にて参加させて頂きました。このような機会をご提供頂き感謝しております。まず13年の時が経ってもお付き合い出来ている先輩や仲間たちとの再会、そして新たに若年層との出会いにより35歳となった今でも青春の様な経験をさせて頂きました。

これも在日として生まれた事により経験できた事、そしてここまで繋げて頂いた先の方々のご尽力に感激いたしました。また機会がありましたら参加させて頂きたいと感じます。



西村龍哉(サッカー・男子)

在日韓国人のサッカー選手として、スポーツの素晴らしさを共有できるこの大会に感謝しています。サッカーは私にとって、文化や国境を超えて絆を築いてくれる特別な手段です。

在日韓国人として、サッカーを通じて団結し、友情を深め、感動を共有することに誇りを感じています。これからもサッカーの魔法が私たちをつなぎ、希望と喜びをもたらしてくれる機会が続くことを願っています。

高橋忠志(剣道・男子)

第104回韓国国体に参加させていただきました。参加国は日本、ベトナム、アメリカ、フィリピン、中国、香港、ブラジルの8か国でした。準決勝でベトナムに敗れて、3位でした。ベトナムは昨年決勝でも敗れたチームでもありましたので、勝ちたかったですが、力及びませんでした。ベトナムに二連敗したことになります。次回は必ずベトナムを倒して優勝したいと思います。最後に今回国体を開催していただいた大会関係者の皆様に深く感謝いたします。